



2022年9月 第20巻 第9号

かく語りき—聖人の言葉

喜びのうちに、愛のうちに生きよ、
あなたを憎む者といても。
喜びのうちに、健康に生きよ、
病める者といても。
喜びのうちに、平安のうちに生きよ、
困っている人といても。
喜びのうちに生きよ、何も持たず、
光輝く存在のように。
…お釈迦様

最初、瞑想は否定的性質をしているだろう。
すべてを切り離して考えなさい。意志の膨大な活動によって心に生じるすべてのことを分析しなさい。次に、私たちが本当は何者であるか、「存在、知識、至福」すなわち「在る、知っている、愛である」と断言なさい。
…スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- お知らせ

- 2022年10月、11月の生誕日
- 2022年8月21日 シュリー・クリシュナ 生誕祝賀会 午後講義 「現代におけるシュリー・クリシュナの理想的側面」 スワミー・メーダサーナンダ
- 忘れられない物語
- 今月の思想

これからの予定

お知らせ

プログラム参加を希望される方はご連絡ください。マスク着用、ソーシャルディスタンス等ご協力をお願いいたします。

2022年10月、11月の生誕日

ヴィッシュダ・シッダーンタ (Vishuddha Siddhanta) 暦では、2022年10月に生誕日はありません。

11月の生誕日

スワミー・スボダーナンダ
11月5日(土)
スワミー・ヴィッギャーナナンダ

11月7日(月)

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

<https://www.vedantajp.com/>

2022年 8月 21日 (日)

シュリー・クリシュナ生誕祝賀会午後 「現代におけるシュリー・クリシュナの理想的側面」 スワミー・メーダサーナンダ

午前の部では、スワミー・ディッヴィヤーナターナンダジーがシュリー・クリシュナの生涯におけるさまざまなエピソードとそれぞれのエピソードの意義を説明しました。これらのエピソードは、シュリー・クリシュナの人生のさまざまな側面と密接に関係しています。そして、これらの側面のどれもが私たちが従うべき理想となり得るのです。そこで、これからシュリー・クリシュナの生涯を布林ダーバンのシュリー・クリシュナ、マートラーのクリシュナ、ドワーラカーのクリシュナ、マハーバーラタのクリシュナ、というように、いくつかのパートに分けます。信者として私たちはそれぞれに従うことができます。

布林ダーバンとゴクラでのクリシュナ

布林ダーバンとゴクラでのクリシュナを合わせて、その時期のシュリー・クリシュナの神聖さの主な側面はどういうものでしょうか？

まず、「ヴァーツァリヤ・バーヴァ(神を子として愛する)」があります。ヤショーダーや牧女たちはその態度を取りました。私達も自分の子供に対して同じ態度を持つことができます、つまり我が子をクリシュナとみるのです。次に、「サッキヤ・バーヴァ(神を友として愛する)」があります。シュリー・ダーマやシュバルや多くの人々のようにシュリー・クリシュナを最愛の友として見るのです。彼らがいかに深くシュリー・クリシュナを愛していたかが分かるエピソードがあります。彼らはシュリー・クリシュナに食べさせる果物が甘いか酸っぱいかをクリシュナよりも先に食べてチェックしました。シュリー・クリシュナも彼らが先に味見をした果物を食べることを嫌がりませんでした。もう一つのサッキヤ・バーヴァの例はアルジュナです。シュリー・クリシュナはアルジュナに、「君は私のサカ(最愛の友)だ」と言いました。もう一つの態度は、「マドゥラ・バーヴァ(神を愛人とみる)」です。若い牧女たちはシュリー・クリシュナに対してこの態度を取りました。

マートラーでのクリシュナ

マートラーでのクリシュナは、「邪悪な心と不道德な人びとを罰する者」です。シュリー・クリシュナはマートラーでは学徒としての生活を送りました。彼はよき弟子、従順な弟子で、師であるサンディパニにとっても献身的でした。師サンディパニが息子を亡くした時、シュリー・クリシュナに「息子を生き返らせてほしい」と頼むと、シュリー・ク

リシュナは息子を生き返らせたほどです。

ドワーラカーでのクリシュナ

ドワーラカーは、西インドにあります。シュリー・クリシュナはその国の国王で在家者でした。ドワーラカーでのクリシュナは「理想的な王であり理想的な在家者」だったので。

マハーバーラタにおけるクリシュナ

クルクシェートラ大戦の前夜と大戦の間、そして大戦の後。その時のシュリー・クリシュナの主な特徴は何でしょうか？ 彼はアルジュナの馬車の御者でしたが、一つの見方として、シュリー・クリシュナはアルジュナだけではなく「私たち全ての人生の御者」です。

私が言いたいのは、シュリー・クリシュナは「カウンセラー(助言者)」であった、ということです。彼は常に何をすべきか、何をすべきでないかなどの助言をしてきたのではないのでしょうか。シュリー・クリシュナは狭い意味ではなく、包括的で非常に深く広い意味でのカウンセラーでした。

さて、このように私たちは、子としての神、友としての神、愛人としての神、理想的な在家者としての神、政界の実力者や王としての神、悪人を罰する者としての神、カウンセラーとしての神など、さまざまなシュリー・クリシュナの役割を見ることができます。ここで私から皆さんへの質問です。こ

れらすべての役割の中で、どれが一番私たちにとって必要なものでしょうか？

参加者「友達」、「助言者」、など。

では、一般的なカウンセラーとシュリー・クリシュナの違いを説明します。私たちが接する機会のある一般的なカウンセラーの皆さんは、カウンセリングをするよりも、カウンセリングを受ける必要があるのではないのでしょうか。医者の不養生ということわざもあるように、一般的なカウンセラーは多くの問題を抱えており、自分に対してのカウンセリングが必要です。しかし、お金を稼がなくてはならないし、学位を持っているので、カウンセリングをするのです。

ひとつ面白い話があります。ある人に心の問題が出て、その人は落ち込みました。その人は、自分の問題を相談し、憂鬱を取り除く方法を見つけるために精神科医のもとへいきました。精神科医は彼に言いました「私はいつも喜びに満ちている人を知っています。彼はいつも冗談を言い、他の人を笑わせています。問題を抱えた多くの人々が彼のところに行くと、彼は皆を笑わせて憂鬱を取り除いてくれます。その人のところへ行ってくださいますか？」。これを聞いた患者は「あなたのアドバイスはともいいのですが、残念ながら、私とその人物なのです！」と答えました。同じことが一般的なカウンセラーにも言えます。シュリー・クリシュナは私たちの永遠なるカウンセラー(助言者)です。そして彼のカウンセ

リングは私たちの生活の一部にとどまらず、生活の全ての面をカバーしてくれます。

こんにち、全ての学校や大学にはカウンセリングをしてくれる相談室があるようです。しかし、私の質問は、そもそもなぜ私たちは我が子を心の病気にさせるのだろうか、ということです。子供たちが心の病気にならないようにする方法はないのでしょうか？心の病気を治療するよりも、心の病気にならないように予防する方が良いのではありませんか？多額の費用がそのようなカウンセリングに費やされています。そして、それらの結果はどのようなものでしょうか？彼らは自分で考えることができません。彼らは鈍く、生きるしかばねのような人間になります。薬物に頼る者もいます。その人はまるで物質のかたまりにまで墮落し、心も、脳も、魂もないようです。

シュリー・クリシュナは、私たちがそのような問題をまったく抱えなくて済むように、助言をします。バガヴァット・ギーターを学べば、あなた方がそのようなトラブルに陥らないようにするために、シュリー・クリシュナが非常に多くの助言をしていることが分かるでしょう。シュリー・クリシュナはすでに問題に陥っている人々のためにも助言をしています。人の人生、毎日の生活、人間関係、食べ物、遊び、道徳的生活、霊的生活など包括的に。だからシュリー・クリシュナの助言は人生の全ての面をカバーするのです。人が想像しうる限りのいかなる問題に対しても、彼には解決策があります。

そのことを考えれば、シュリー・クリシュナは特別な種類のカウンセラーではないでしょうか？

スワミー・ヴィヴェーカーナンダの理想のクリシュナ像

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、私たちにどのタイプのシュリー・クリシュナが必要であるか、ということについて、明快でした。「何百年もの間、私たちインド人は布林ダーバンのシュリー・クリシュナに従ってきました。マドゥラ・バーヴァやそのようなバーヴァを私たちの理想として受け入れてきました。しかし、私たちはこれらすべてを捨てるべきです」「今、私たちには、マハーバーラタのクリシュナが必要です、ギーターのクリシュナが必要です。クリシュナはいつも笛を吹き、牧女たちと踊っていたと思いますか？それがあなたのクリシュナの理想像ですか？そのようなクリシュナのイメージを捨てなさい」とスワミー・ジーは言いました。スワミー・ジーは何度も何度も、「私たちの理想は、勇気、強さ、智慧の権化であるマハーバーラタのクリシュナ、バガヴァット・ギーターのクリシュナであるべきだ」、と言いました。

何世紀にもわたって、私たちは布林ダーバンのクリシュナやゴクラのクリシュナを礼拝してきました。そしてその結果、インドは従属国となってしまった、インドは外国に支配され搾取されたのです。なぜなら私たちは「残忍な者には勇敢に立ち向かえ、

逃げるな、あきらめるな」というギーターの教えに全く従わなかったからです。

アルジュナは、自分の恩師、親戚などを殺したくなかったので、戦うことを嫌がりました。彼は、「私は友や親戚や恩師を殺すくらいなら、物乞いをする方がましです」と言いました。その時シュリー・クリシュナは、「君は何を言っているのだ」と嘲笑しました。「君はクシャトリアのカーストに属しているのだよ。クシャトリアの義務は善人たちを悪人から護ることだろう。それが君の宗教だ。君はドラウパディが受けた辱めに対して復習すると誓ったではないか。君はそのことをすべて忘れ、乞食(こつじき)となって托鉢がしたいだと？ 恥を知れ。立ち上がって戦いたまえ！ それが君の義務なのだから」

klaibyaṁ mā sma gamaḥ pārtha naitat
tvayyupapadyate

kṣudraṁ hṛīdaya-daurbalyaṁ
tyaktvotiṣṭha parantapa 2.3

クライビヤン マースマ ガマハ パール
タ ナイタット トヴァイ ウパパッヂャテー/
クシュドラン フリダヤ・ダウルバツリヤン
テヤクトヴォーッテイシュタ パランタパ//

そんな態度は、男らしくもないし、まったく君にはふさわしくない。さあ、弱気を捨てて立ち上がりなさい。敵を撃破する勇者(アルジュナ)よ。

私たちはその助言を聞き入れませんでした

た。私たちはただ、高価な白檀のペーストを塗り、プラナム(敬礼)をすることで、クリシュナを礼拝し、バガヴァツ・ギーターを礼拝するだけで、全然その教えに従わなかったのです。一方で、西洋の人々はギーターを学びませんでした。実際にはギーターの教えを実行して、私たちの国を征服しました。そして、ギーターはインドで説かれ、私たちの哲学であり霊性の本であるにもかかわらず、私たちはそれに従わなかったために、苦しみました。それゆえにスワージーは、今、私たちはマハーバーラタ、バガヴァッド・ギーターのシュリー・クリシュナの教えに従うべきである、と言ったのです。

さて、あなた方は皆、バガヴァツ・ギーターを読んだことがありますね。バガヴァッド・ギーターの教えの中で最も印象的な教え、もしくは一番好きな教えは何ですか？

参加者の答え

「無執着」

「義務を遂行しなさい」

「義務は感情よりも大事」

「あなたが何をやるにしても、それらの仕事の全ての結果をシュリー・クリシュナに捧げなさい」

「強くあれ、弱くなるな」

「バランスの取れた生活。すべてバランスを取ってすべきである」

「内なる喜び」

「人生は一時的なものだが、永遠のものがある」

「すべて最高のものの中に、シュリー・クリシュナの存在がある」

「シュリー・クリシュナの宇宙的な形」

「川は海に流れ込むが、海は影響を受けない。心が無変化であり続ける」

上記の最後の点を説明する美しい節があります。

āpūryamāṇ am achala-pratiṣ ḥṭ haṁ
samudram āpaṇ praviśhanti yadvat

tadvat kāmā yaṁ praviśhanti sarve sa
śhāntim āpnoa kāma-kāmī 2.70

アープーリヤマーナム アチャラ・プラティ
シュタン/ サムッドラム アーパハ プラヴ
イシャンティ ヤドヴァト/ タッドヴァト カ
ーマー ヤン プラヴィシャンティ サルヴ
ェー/ サ シャーンティム アープノーティ
ナ カーマカーミー/

無数の河川が流れ入ろうとも、海は泰然として不動であるように、さまざまな欲望が次々に起ころうとも、それを追わず取り合わずにいる人は平安である。

私たちの場合はどうでしょうか？ 私たちは何らかの欲望が生じるとその欲望を満足させたくになります。その時私たちの心は乱れます。なぜならその欲望を満足させるために、働かなければならないからです。働かずしてどうやって欲望を満足させることができるでしょう？ それだから、それが私たちの心が穏やかで静かでいられない理由なのです。

さて、もし私がどの節が一番印象的かと問われると、特定の節ではなく、ギターの全ての節と答えます。というのは、私には好きではない説などひとつもありませんから。

「あなたの義務を果たしなさい」

そのための四つの態度

それでもどうしてもギターの最も重要な言葉が何かを言わなければならないとしたら、一つは「あなたの義務を果たしなさい」を挙げます。「あなたの義務から逃げてはならない。如何なる義務を負おうとも、それを遂行せよ。逃げるな。逃げ道はない」。これにはいくつかの態度があります。

① ひとつ目の態度は「義務をしている間中、常に神を思う、神について考える」です。

tasmāt sarveṣ hu kāleṣ hu mām anusmara
yudhya cha 8.7

タスマット サルヴェーシュ カレーシュ
マーム アヌスマラ ユッデヤ チャ/

故に、君はいつも私のことを思いながら戦いなさい。

これは素晴らしいメッセージです。戦いなさい！ この場合の戦いは、必ずしも武器で戦うという意味ではありません。ここでは

義務を遂行しなさい、という意味です。全ての人の義務の場は、クルクシェートラ(アルジュナが戦った戦場の名前)のようなものです。そこは病院かもしれないし、会社かもしれません。また、主婦の場合は家庭という環境でしょう。そこは皆さんにとってある意味クルクシェートラなのです。皆さん一人一人が兵士であり、誰もが戦士です。アルジュナは私たちの象徴に過ぎません。だから、あなたの義務が何であろうと、それをしなさい。しかし心ではいつも神を想うのです。

② 二つ目の態度は、「**神の道具として働きを行う**」です。自分が仕事をしていると考えてはなりません。確かに、外から見ると、私がしていますが、「本当は、私は神の道具として仕事をしています」、と考えるのです。自分の持っている力、知性、技術がどんなものであれ、全ては神からきています。もし、ペンが「ボクが書いている」と考えたら、それはおかしいでしょう。ペンも鉛筆も自分では書けません。それらは書く目的のための道具に過ぎなのですから。私たちの立場もペンと同じようなものです。だから神の道具として働きを行いなさい。

③ そして三つ目の態度は、「**何に対しても、誰に対しても、執着をしてはいけない**」です。愛しなさい、しかし執着してはいけません。なぜなら執着は束縛と苦しみをもたらすからです。それに対し、愛は自由と喜びに導きます。ではどのように実践すればいいのでしょうか？ 多く人は、愛しつ

つ執着しない、という方法について混乱があります。もし大切な人に対して執着しないなら、その人を愛することもできないのではないかと恐れるからです。しかしこれは絶対に間違いです。執着のない愛は可能です。

一つの例がシュリー・ラーマクリシュナです。シュリー・ラーマクリシュナは若い直弟子たちをととも愛していました。ある時、直弟子の一人であるプレーマーナンダジーが自分の母親に「お母さん、私をどれくらい愛しておられますか？ シュリー・ラーマクリシュナの愛は、お母さんの私への愛よりもっともっともつとすごいです」と言いました。母は驚いて答えました「何を言っているの？ 私はあなたのお母さんですよ。私があなたを愛していないとでも言うの？」。プレーマーナンダジーは言いました「もちろん、私を愛してくださっています。でもシュリー・ラーマクリシュナの愛は比類なきものなのです。そこには執着のほんの少しの痕跡もありません」。

ではどうすれば執着せずに愛せるようになるのでしょうか？ それには二つの実践が必要です。

まず第一に、「**あなたの愛の全てを神への愛に結び付けなさい**」。愛する人の中に神を見るように。そしてあなたが愛する人だけでなく、全ての人びとの中に神を見るようになさい。そうすれば、全ての愛、全ての関係が神の愛と結びつくでしょう。

そして第二に、「**全ての人間関係は今生**

のみという限定付き、ということ覚えておく」ということです。それに対して「私たちと神の関係は永遠」です。もしこのことを覚えておこなうならば、私たちは執着せずに愛することを実践できます。

④ 四つ目で最後の態度は、「**カーマ(欲望)**:具体的には肉欲、**クローダ(怒り)**、**ローバ(貪欲)**をコントロールする」です。これらをコントロールできれば、あらゆる種類の助言をすべて実践することができます。

tri-vidhaṁ narakasyedaṁ dvāraṁ
nāśhanam ātmanaḥ

kāmaḥ krodhas tathā lobhas tasmād etat
trayaṁ tyajet 16-21

トリ・ヴィダン ナラカッシェーダン ドヴァ
ーラン ナーシャナム アートマナハ/
カーマハ クローダス・タター ローバス
タスマード エータト トラヤン テャジェー
ト//

人間の魂を墮落させてしまう地獄への門が三つあるが、肉欲、怒り、貪欲がそれである。それ故、正気の間人は、この三つを捨てなければならぬ。

もし私たちがこれらの三つを抑制することができたら、私たちはもっと簡単に他の実践をすることができます。

さて、なぜ私たちはこれまでに言ったすべてのことを実践しなければならないのでし

ょうか？ なぜなら私たちは、永遠なる平安、永遠の喜び、最高の智慧、の状態が欲しいからです。これがバガヴァット・ギーターによる人生の目的です。皆、平安と喜びを欲していますが、間違った方法で間違った場所にそれらを探し求めています。平安と喜びを得るためには、ギーターの教えを実践してください。



忘れられない物語

「ユディステイラの犬」

クルクシェートラでの戦いの数十年後、勝者であるパーンダヴァ兄弟は聖者ヴィヤーサの助言に従って引退し王国を去ることにした。

パルクシットをパスティナープラの王に即

位させ、ヴァジュラをインドラプラスタの王に即位させてから、パーンダヴァ兄弟は妻ドラウパディを伴って、インド・ヒマラヤ山脈へ(最期の)旅に出た。ユディシュティラの後ろには、ビーマ、アルジュナ、ナクラ、サハデーヴァ、そして最後にドラウパディが続いた。

旅の始まると、一匹の犬が彼らと仲良くなり、ずっと共に旅をした。

ヒマラヤに登り始めると、まずはドラウパディ妃が、その後、一人また一人とバタバタと死んでいった。

パーンダヴァ兄弟の長男ユディシュティラは生き残り、犬は試練の時もずっと傍らにいた。ユディシュティラと犬は旅を続けた。

最後に天界に昇ろうとしたとき、馬車に乗ったインドラ神が下りてきてユディシュティラに、「さあ、馬車にお乗りなさい。天界へ行こう」と言った。そこでユディシュティラはインドラ神に、「犬も一緒に連れていかせてください」と頼んだ。

インドラ神は「犬を馬車に乗せてはいけない。ユディシュティラ、お前だけだ」ときっぱりと言った。

しかし、まさにダルマの人であるユディシュティラが、ずっと自分と共にいた存在を放っておくことなどできようか。元国王であるユディシュティラにとってその犬は今や、旅の苦しいときにも順調な時にも傍らにいた友であった。ユディシュティラのハートは、

友を裏切ることなどできない。なぜならそれは罪となるからだ。ユディシュティラは最後の瞬間まで自分らしくあった。それは意図しなかったにせよマハーバーラタ叙事詩の中で最も輝かしい道德の物語の一つとなったのだ。

ユディシュティラが大事にした犬は、ダルマ神ご自身に他ならなかった。神はユディシュティラのやさしさと献身に打たれたので、神として再び姿をあらわし、彼の徳を称えた。この出来事はダルマの試験だったのだ。ユディシュティラは、彼と共にいた者たちを見放さないことで、再び彼の公正さを証明してみせた。

その時、天国の門は、インドラの馬車に乗る徳高きユディシュティラに開かれた。

今月の思想

「あなたは霊的成長をしているだろうか？ 他者を愛せるか？ 他者と一体であると感じられるか？ 自分のうちに平安があるか？ そしてそれを自分の周りに放射しているか？

それが、内的には瞑想によって、外的には奉仕の精神による仕事によって進む、霊的成長というものだ」

…スワミー・ランガナターナンダ

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp